

## 露地夏ねぎの腐敗にご注意ください！

令和4年 7月 13日  
千葉県山武農業事務所

昨年度産の露地夏ねぎ栽培では、収穫時、「軟腐病」などの細菌病が多発しました。  
夏ねぎは収穫時期が高温・多湿で細菌病が発生しやすい環境になります。  
予防策の徹底と、選別時の入念なチェックをお願いします。

### ほ場での腐敗：「軟腐病」

- 原因： *Erwinia* 属の細菌
- 特に収穫直前の降雨後、腐敗したねぎが多発する。
- 悪臭がある。
- 最適発育温度：28～34℃
- 細菌は土壌中で5年くらい生存し伝染する。被害植物の残渣が伝染源となり、連作により多く発生する。  
土壌湿度が高い場合発病が多い。（日本植物病害大辞典より）



### 調整以降に見つかる腐敗

- 原因：特定されていないが、「軟腐病」と同じ  
土壌伝染性の細菌病と推測されている。
- <現地でのこれまでの傾向>
- 前日に箱詰めすると翌朝箱の中でねぎが腐敗している。
  - 上位3～4葉のうち1葉が水浸状になり腐敗する。
  - 悪臭はしない。
  - 高温多湿、特に降雨後の晴天・高温時に発生が多い。
  - 2Lクラスの太いねぎで発生が多い。



葉が1枚だけ腐敗している

出荷後の腐敗は大きなクレームに繋がります。  
疑わしいねぎは、箱に入れない、出荷しないことが重要です。  
調整の際に、ねぎを注意深く確認、選別してください。

<こんな時にはご注意ください>

- ☑ 葉の断面が変色している。
- ☑ 葉の表面に変色・変形がある。
- ☑ 降雨後など、発生しやすい条件だ。
- ☑ 収穫遅れや、太めのねぎ。

## 「軟腐病」等、土壌伝染性の細菌病の予防のポイント

### (1) 病原菌が侵入しにくいねぎを作る

- 太らせすぎない

M~LAから収穫する。軟白の長さよりも太さで収穫時期を考える。

生育が旺盛で葉色が濃い場合、追肥を控える。

- 老化させない

適期収穫を心がける（夏ネギでの止め土から収穫までの目安は約2週間）。

は種・移植時期をずらす、複数品種の作付け等で収穫適期を拡大する。

- 襟元の開きにくい品種を選択する。

### (2) 病原菌の侵入を防止する

- 土を高く寄せすぎない。

襟元に土がかからないように注意。

- 殺菌剤の散布で防除する。

細菌は増殖スピードが速いので、予防を徹底する。

#### 「軟腐病」に登録のある農薬

作業機構分類コード	薬剤名	倍率・使用料	使用時期（収穫前日数）	使用回数	
PO2(P2)	オリゼメート粒剤	6kg/10a	土寄せ時(但し30日前)	2回	
24(D3)	MO1(M)	カスミンボルドー	1000倍	14日前	2回
31(A4)	(銅剤)	ナレート水和剤	1000倍	14日前	3回
U18(U)	バリダシン液剤5	500倍	前日	2回	

### (3) 土壌中に病原菌を残さない・減らす

- 罹病株は抜き取る。

- 土壌消毒を実施する。

- 緑肥等を作付けし、連作しない。

### (4) 腐敗しない環境作り

- ほ場にて

明渠の施工、サブソイラー等による硬盤破碎で排水性を向上させる。

- 作業場にて

収穫したねぎは、できるだけ、涼しい環境に保管し、出荷までの時間を短くする。

現在のところ、決定的な防除手段はありません。

取れる予防策を、一つずつ実行してください。